安全管理プロジェクト活動報告

○小山哲夫、川田良暁[*1]、小林邦宏[*1]、川原藤樹[*2]、笠原美久、加藤美佐、黒土優太、
今野茉理奈、佐藤亜矢子、田中協子、徳永　誠、結川達也、沼本啓良[*3]

物質・生命科学系　[*1]機械建設系　[*2]電気電子情報系　[*3]事務担当

１．はじめに

大学は、構成員の大部分が専門知識を持たない学生であるという点において、企業とは異なる安全管理が必要となる。本プロジェクトは、安全に係る技術的なサポートを全学に提供すべく、平成 22 年より活動をしている。今年度の活動状況を以下に報告する。

２．今年度の活動報告

・薬品管理システム(IASO)の管理・運用支援

本年度もIASOの管理・運用の支援を継続している。システム管理のほかに、薬品受入窓口で一括登録した毒劇物が各研究室の保管庫へ正しく移されているかなど、IASOの使用状況についても定期的にチェックした。

・安全管理かわら版の発行

NPO法人教育研究機関化学物質管理ネットワーク(ACSES)が発行するメールマガジン「ACSESニュースレター」より、法令改正や他機関での事故・安全対策に関する記事をピックアップし、「安全管理かわら版」として学内限定で公開している。今年度は、かわら版冒頭のトピック欄にて「労働安全衛生法及び作業環境測定法の一部改正」(6月号)や、「他大学での窒息事故」(11月号)などをとり上げた。



図.「安全管理かわら版」

また、昨年度までは各号の公開は教職員のみが閲覧できるサイトにて行っていたが、今年度より学生も閲覧可能な「安全衛生ポータルサイト」にて公開するよう変更した。学生が身の回りの安全に関心を持つ一助になればと考えている。

・安全管理についての情報提供・意見交換

安全への取り組みに関しては、他機関との情報交換も重要であり、群馬大学・宇都宮大学・茨城大学と合同で「北関東地区技術系職員　安全管理ワークショップ」を毎年開催している。本年度は群馬大学を幹事校として 13 回目のワークショップを3月９日に開催予定であり、当プロジェクトからは「埼玉大学における安全管理と事故対応」のタイトルで発表の予定である。

・学科の安全教育への支援

工学部応用化学科からの依頼で、今年度も学生実験ガイダンスにおける安全教育の講師を務めた。内容は、学生実験を受講する際の服装や薬品の取り扱い、さらには実験後の廃液の取り扱いなどについて一連の説明を行っている。

・埼玉大学における事故発生への対応

令和7年7月９日に埼玉大学構内で爆発を伴う事故が発生したが、総合技術支援センターでは事故現場の後片付けを担当した。その後の事故調査委員会が立ち上がるのに伴い、本プロジェクトのメンバーが事故調査WGに参画し、技術的な観点から事故調査に関わった。

３．今後の展開

大学の作業場では様々な状況が混在しているため、各々の技術職員だけでは目の行き届かないところに危険が潜んでいる。教職員のみならず学生達にも安全管理に関心を持ってもらい、リスクに気づいて事故の発生を未然に防げるよう活動をすすめてゆきたい。